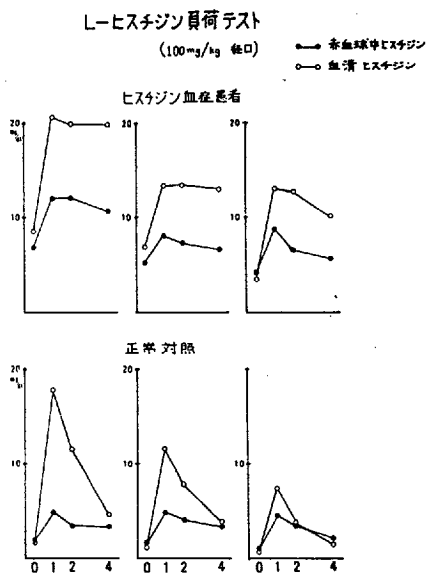


図2



メープルシロップ尿症患者由来リンパ球の株化とその酵素活性

熊本大学小児科

松田一郎
赤星泉
山本治郎

—はじめに—

これまでわが国では、新生児スクリーニングにより5名のメープルシロップ尿症の患者が発見され、うち1名は新生児期に死亡したが残りの4名は生存し治療を受けている。われわれは、これら患者からリンパ球を分離しそれを Epstein Barrウイルスを使って株化、保存し、今後の研究、治療法改善などに役立てることを目標として以下の研究を行った。

—方 法—

鹿児島、久留米、京都に在住する患者より採血し、培養液中に入れて郵送してもらい、これに

Epstein - Barr ウイルスを感染させて、細胞を株化した。

側鎖ケト酸の Carboxylase activity の測定には 2×10^6 cell を pH 6.9、 $5 \mu\text{Ci}$ ^{14}C - leucine (S A、 $2.5 \mu\text{Ci}/\mu\text{mol}$) を含む緩衝液中でインクベートし、出てきた $^{14}\text{CO}_2$ を 25% phenethylamine - ethanol solution に trap して、液体シンチレーションカウンターでカウントする方法を用いた。

一 結 果 一

3人の患児からのリンパ球株化は成功し、それぞれMSUD-1、MSUD-2、MSUD-3として保存した。

酵素活性は対照に比して0~30%と著明に低下していた。

考 案

今後、スクリーニングで発見された千葉県のある患者のリンパ球株化もあわせて行うつもりである。このようにして株化してCell bankを作れば、各々の遺伝的背景、治療成績との関係など有益な情報を伝えてくれるものと思われる。

赤血球を利用したインスリンレセプター の測定法(その2)

熊本大学小児科

松 田 一 郎
並 河 東 志 夫
並 河 俊 子
藤 本 茂 紘

一 はじめに 一

Gambhir らが赤血球の特異的なインスリンレセプターについて報告しており、昨年につづき我々は彼らの方法に多少の改変を加えて、同じく赤血球のインスリンレセプターの測定について検討した。

一 対 象 一



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

これまでわが国では、新生児スクリーニングにより5名のメープルシロップ尿症の患者が発見され、うち1名は新生児期に死亡したが残りの4名は生存し治療をうけている。われわれは、これら患者からリンパ球を分離しそれをEpstein Barr ウイルスを使って株化、保存し、今後の研究、治療法改善などに役立てることを目標として以下の研究を行った。